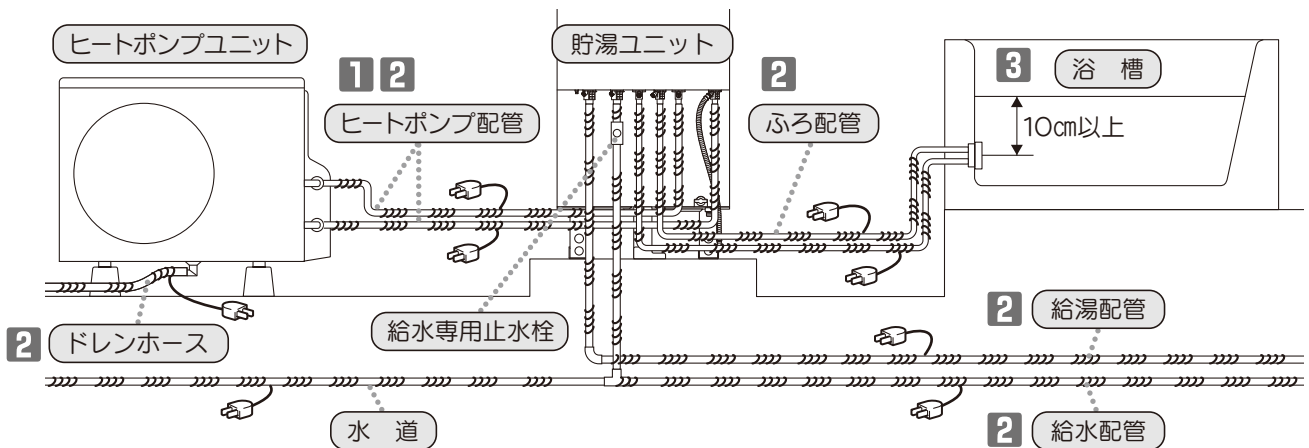


# 冬期の凍結予防について

- 冬期は暖かい地域でも、配管内の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。お買い上げの販売店または工事店へ相談し、適切な凍結防止対策をしてください。

## ⚠ 注意

- 凍結のおそれがあるときは、電源を切らない  
配管が凍結し、水漏れの原因になることがあります。
- 配管の保温工事、不凍結水栓、凍結防止ヒータなど凍結防止対策を確認する  
正しく工事されていないと配管が破損して水漏れややけどの原因になることがあります。販売店（工事店）にご確認ください。



## ヒートポンプ配管の凍結予防

### 1 電源を入れたままにしておく。

- 外気温が約3℃以下になると、自動でヒートポンプ配管に水を循環させます。また、外気温がさらに低いときには、ヒートポンプユニットが運転する場合があります。

## 凍結防止ヒータを使う

### 2 凍結防止ヒータを使用するときは、すべての電源プラグをコンセントに差し込む。

- 凍結防止ヒータを使用しないときは、すべての電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 不凍結水栓により給水・給湯配管の凍結予防をおこなう場合

## ⚠ 警告

- お湯を使うときは、お湯の温度を確認する  
入浴時やシャワー使用時は、指先などで湯温を確かめないとやけどの原因となります。

## — 不凍結水栓をご使用になる地域のお客様へ —

- 不凍結水栓で水抜きをした翌日の給湯は、給水・給湯配管の水が抜けているため、お湯・シャワーが一時的に途切れたり、湯温が変動する場合があります。

# 冬期の凍結予防について

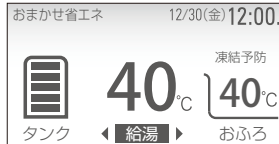
## ふろ配管の凍結予防（おふろの残り湯循環）

### 3 入浴後、おふろのお湯を排水せず残しておく。

- 循環ポンプが凍結するおそれのある気温になると、循環ポンプが自動的に運転して凍結を予防します。凍結のおそれのあるときは、おふろに浴槽循環口中心より10cm以上水を残して、循環ポンプが空運転しないよう注意してください。
- 凍結するおそれのある地域では、凍結防止ヒータで凍結予防もおこなってください。
- 凍結予防運転中はリモコンに「凍結予防」（浴室リモコンの場合は「❄」）を表示します。



■台所リモコン画面



■浴室リモコン画面



#### お知らせ

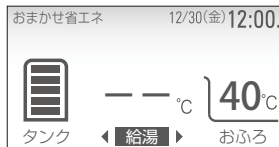
- 「凍結予防」（❄）表示中は、ふろ配管の冷めたお湯がおふろに出ることがあります。
- おふろの残り湯が少ないときは、「凍結予防」（❄）表示中に浴槽循環口からボコボコと音がしたり、水が出たりすることがありますが、異常ではありません。

## 特に寒さが厳しいときの凍結予防

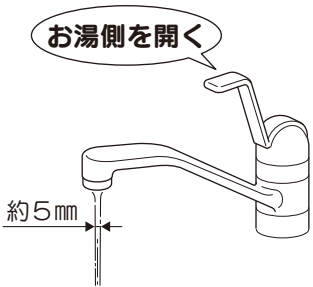
### 4 蛇口の通水による凍結予防をおこなう。

- 給湯温度を「水（表示は --°C）」に設定し、蛇口のお湯側を開き、1分間に約400ccの水（太さ約5mm）を流したままにしてください。（操作方法は取扱説明書 操作編「お湯・シャワーを使う」をご確認ください。）

■台所リモコン画面



■浴室リモコン画面



#### お願い

- 寒さが厳しいときは、機器の凍結予防動作のみでは配管の凍結は防げませんので、必ずすべての配管に保温材を巻くなどして凍結予防の処置をしてください。（特にふろ配管は保温材が巻かれていない可能性があるので注意してください。）また、貯湯ユニットや浴槽循環口との接続部についても、凍結のおそれがありますので必ず保温材を巻いてください。

## 実際に凍結してしまったら

- 下記の症状が発生した場合、凍結の可能性があります。
  - ・蛇口からお湯がでない。
  - ・ふろ湯はりができない。
  - ・リモコンにエラー（E14）が表示された。

■台所リモコン画面



■浴室リモコン画面



#### 対処方法

- 気温の上昇により自然に解凍するまで待つ。  
※給湯配管にお湯をかけて解凍すると、配管やバルブの破損の原因になるおそれがあります。

#### お願い

- 対処方法にて改善しない場合は、給水専用止水栓を閉じて、お買い上げの販売店または工事店へご連絡ください。（→取扱説明書 操作編「故障かなと思ったら」を参照）
- 蛇口からお湯が出るようになったら、機器や配管から水漏れなどがいないか確認してからご使用ください。